

自己評価表

愛媛県立八幡浜高等学校(全日制)

学校番号(34)

教育方針	1	校訓(五綱領:勉学 礼儀 健康 融和 奉仕)を基調として、国家社会の有為な形成者としての資質を養う。	努力目標	1	主体的に行動する生徒の育成	
	2	社会の変化に柔軟に対応し、自らの進路を切り開く確かな学力を育成する。		2	目指す学校像	○ 文武両道の進学校
	3	個性を尊重し、国際的視野を持った心豊かな人間を育成する。			Hachiko Diploma Policy(Hachiko DP)	①『創造力』 先人の知恵を糧とし、創造する力を身につけます。 ②『決断力』 主体的に学びに向かい、未知の状況を果敢に切り拓く逞しさを身につけます。 ③『行動力』 自ら考え、判断し、速やかに行動する力を身につけます。 ④『対応力』 新たな環境の変化から課題を見つけ、自ら柔軟に対応する力を身につけます。 ⑤『突破力』 分析と改善を重ね、現状の課題を乗り越える力を身につけます。 ⑥『継続力』 自らの目標に向かって、一つ一つ努力を積み重ねていく習慣を身につけます。 ⑦『構想力』 未来の創り手として、考えを体系的に組み立てる力を身につけます。 ⑧『深化力』 客観的な視点に立ち、「何故そうなるか」を深く考える習慣を身につけます。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に即した学習指導と評価 ・教員の実践的指導力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態及び多様な進路に応じた学習指導の研究と実践 ・生徒の実態に応じた適切な評価方法の研究と実践 ・研修・研究授業の参加5回以上 A: 5回以上、B: 4回、C: 3回、D: 2回、E: 1回以下 	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の研究を進めることはできており、生徒の理解度も良好であるが、保護者等からの評価がやや低い。 ・新学習指導要領における評価方法等について研究・実践を継続できている。 ・12月末現在で86%の教員が研修・研究授業に3回以上参加した。6月には特別時間割を設定しライブ配信による研究授業を実施する工夫を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の研究・実践を継続して行い、生徒の変容によって保護者等から評価されるように努めていきたい。 ・適切な評価のために、引き続き、規準等の検証・改善を進めていきたい。 ・授業が理解できていないと感じる生徒がゼロになるように、実践的指導力の向上を図る研修を継続していく。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の規範意識の向上と育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の交通事故0件 ・学校行事・奉仕活動やボランティア活動に主体的・積極的に参加する生徒100% 	<p>C</p> <p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・12月末現在で6件の自転車事故の報告があった。昨年と比べると3件の増加となった。内5件が対車との接触事故であった。 ・生徒のアンケートで「奉仕活動やボランティア活動に参加しましたか」に対して58%の生徒が0回と回答した。昨年同様、積極的な参加には至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6件の事故報告中4件が交差点で発生している。交差点侵入の際の左右確認、一時停止か徐行運転を必ずするよう継続して呼び掛け、交通事故の未然防止に努める。 ・感染症予防対策を周知し、可能な範囲で生徒の主体的なボランティア活動の参加が実現できるよう広報等の充実を図りたい。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導及び教職員の協働体制の強化 ・望ましい勤労観・職業観と高い学問研究への意欲の養成 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導課と教職員相互の協働体制を強化し、生徒の進路希望達成率100%を目指す。 ・キャリア教育の充実を目指した探究活動及び地域連携活動の深化を目指す。 	<p>C</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学の年内入試に28人がチャレンジし14人合格(合格率50%)。全国的に競争率が高まっており、教職員の協働体制の更なる強化が必要である。 ・合同企業説明会やインターンシップ、講演及び実習など延べ30回を超え、生徒の約9割が「満足である」と回答するなど地域連携活動を充実させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年が探究学習に力を入れている中、学力向上への意識を高めることも必要であり、特に模試成績を上昇させるための対策が不可欠である。 ・八翔キャリアノートの活用や内容改善を図り、自己分析やキャリア形成につなげていきたい。

※評価は5段階(A:十分な評価があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
健康・環境	・学校設備の安全点検と改善	・トイレ修繕2か所以上を目指す。	C	・全面的な改修はないが、水回りや個別の修繕は行った。	・3校合併までには、第1・第2教棟トイレを改修していくべきだと考える。
図書	・読書活動の充実	・読書活動の推進：生徒1人貸出5冊以上及び10冊読破 ・図書室を利用したことのない生徒・教員0人	C C	・11月実施の生徒アンケートでは、65%の生徒が5冊未満の読破冊数であった。学年が上がるにつれて図書館の利用率が下がっている。 ・12月の生徒アンケートでは38%の生徒が図書室を1回も利用していないと回答した。一方で24%の生徒が3回以上利用しており二極化している。	・国語科や図書委員と連携して、コロナ禍で実施されなくなった図書と親しむイベントの企画運営を行う。 ・生徒アンケートで「読書が好き」と答えた生徒は約80%となっており、新刊については貸出数も多いことから、購入図書の精選に努める。
情報	・情報発信の充実 ・学校教育活動の発信	・ホームページの適切な更新(1日当たり800件以上のアクセス数) A:1000件以上、B:800件、C:600件 D:400件、E:200件 ・生徒の活動の様子やPTA行事、研修会等の報告を通して保護者等との連携を深め、学校評価アンケート結果を昨年度より改善する。	B B	・ホームページの更新は昨年より多く更新できた。しかし、1日のアクセス数が昨年度は平均570件だったが、今年度は550件と約20件減少している。数値目標値の見直しと魅力あるホームページ発信に努めていきたい。 ・コロナ禍の制限が解除され、学校行事等への参加も増えることによって学校の様子を直接見ていただくことができた。情報発信も例年通りではあるが改善し、より良い活動につなげることができた。	・各課のホームページ作成委員と連携をとり、更なる充実を図りたい。八高日記は今年度改善を行ったが結果にはつながらなかった。YouTubeなどの内容を充実させ更なるアクセス数の増加を図る。 ・「PTA月報」及び「PTA会報」において、内容をより一層充実させたい。また、他の方法も含め周知の仕方について検討し、様々な生徒の活動やPTA行事等を発信していきたい。
人権・同和教育	・「部落差別解消法」の具現化	・人権・同和教育ホームルーム活動の年間計画の見直し ・人権委員会活動、人権・同和教育研修会の充実	C C	・『人間の輪』に基づき、体系的な計画を立てることができた。公開授業を1学期に行うことで、全学年での実施ができ、参観者も昨年度の約3倍に増えた。 ・子ども食堂への参加や文化祭での委託販売など昨年度よりも地域との連携をより強くすることができた。 ・職員研修や人権委員夏季研修会も実践的な研修を行うことができた。	・生徒が主体的に3年間学習できるように、様々な情報や教材を教職員に提供していきたい。 ・地域と協力して、生徒・教職員が様々な人権問題に取り組めるように連携を深めていきたい。 ・職員研修については、生徒へ還元できるような内容を検討していきたい。
業務改善	・適切な勤務時間	・教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	B	・年次有給休暇の取得を促したり、テレワークを積極的に推進したりすることでワークライフバランスに配慮した取組を行った。 ・毎月提出される出退勤状況記録表を確認し、勤務時間について声掛けを行った。	・教職員の勤務時間を把握し、「早く帰ろうDAY」の徹底、ICT機器の有効活用、会議の精選と時間短縮による業務改善を進め、働き方改革をより一層推進する。

※評価は5段階(A:十分な評価があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。